

おおぼら 粟原周辺の古墳探訪

花山西塚古墳 (国史跡)

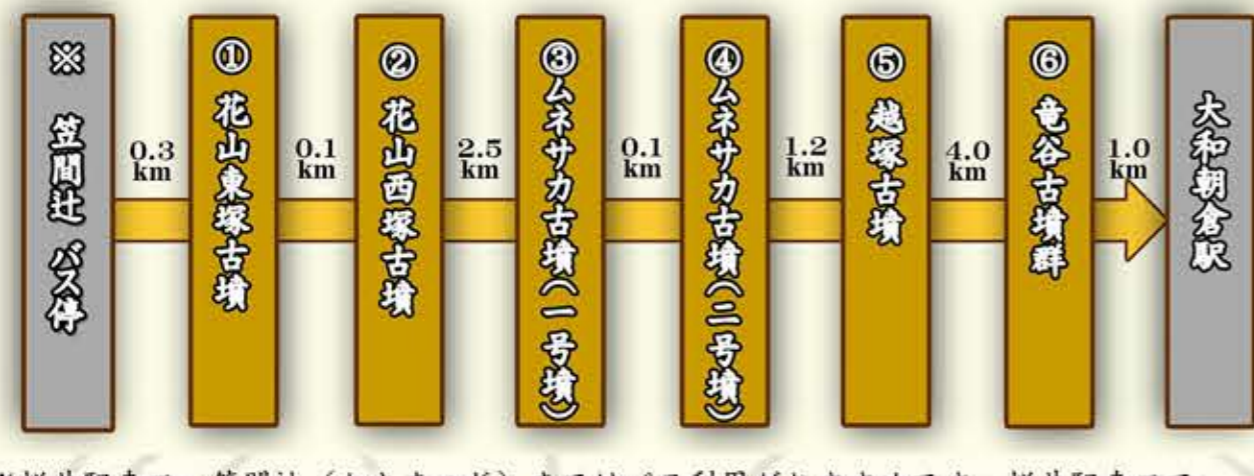
～体験しよう！桜井の古墳ワールド！～

桜井市の市街地の東部、忍阪から女寄峠を経て宇陀へ向かう国道166号線沿いの粟原谷は終末期の古墳が点在する地域として知られています。越塚古墳、ムネサカ古墳（共に県史跡）のような大型の横穴式石室を持つ古墳の他、椋原石をレンガ積み手法で築き上げた磚積石室を持つ花山東塚古墳や花山西塚古墳（国史跡）が知られています。しかしながらほとんどは山の中にあり探しにくい所でもあります。この冊子では出来るだけ現地の写真を入れ探索の参考になるよう工夫しました。古代のタイムカプセルともいべき古墳の数々を、歴史の息吹を感じながらこの機会に是非体験ください。

編集・発行：一般社団法人 桜井市観光協会

モデルコース（※全行程約10km）

※桜井駅からバス利用の場合



※桜井駅南口～笠間辻（かさまつじ）まではバス利用がおすすめです。桜井駅南口で「大宇陀（おおうだ）」行に乗車ください。乗車時間は約16分です。（雨天や足元の悪い時は山間部にある花山東塚・西塚古墳・ムネサカ古墳は遠慮ください。）

古墳探訪・・・その前に

日本のはじまりの地、桜井市には、女王卑弥呼の墓ではないかと言われる箸基古墳をはじめ、ヤマト王権発祥の地に相応しい古墳が数多く残ります。そんな桜井の古墳の中から、今回は粟原周辺にスポットを当て探訪可能な、おすすめの古墳についてご案内いたします。出かける前には以下の事に留意され古墳探訪をしていただくようお願いいたします。

①マナーを守ろう！

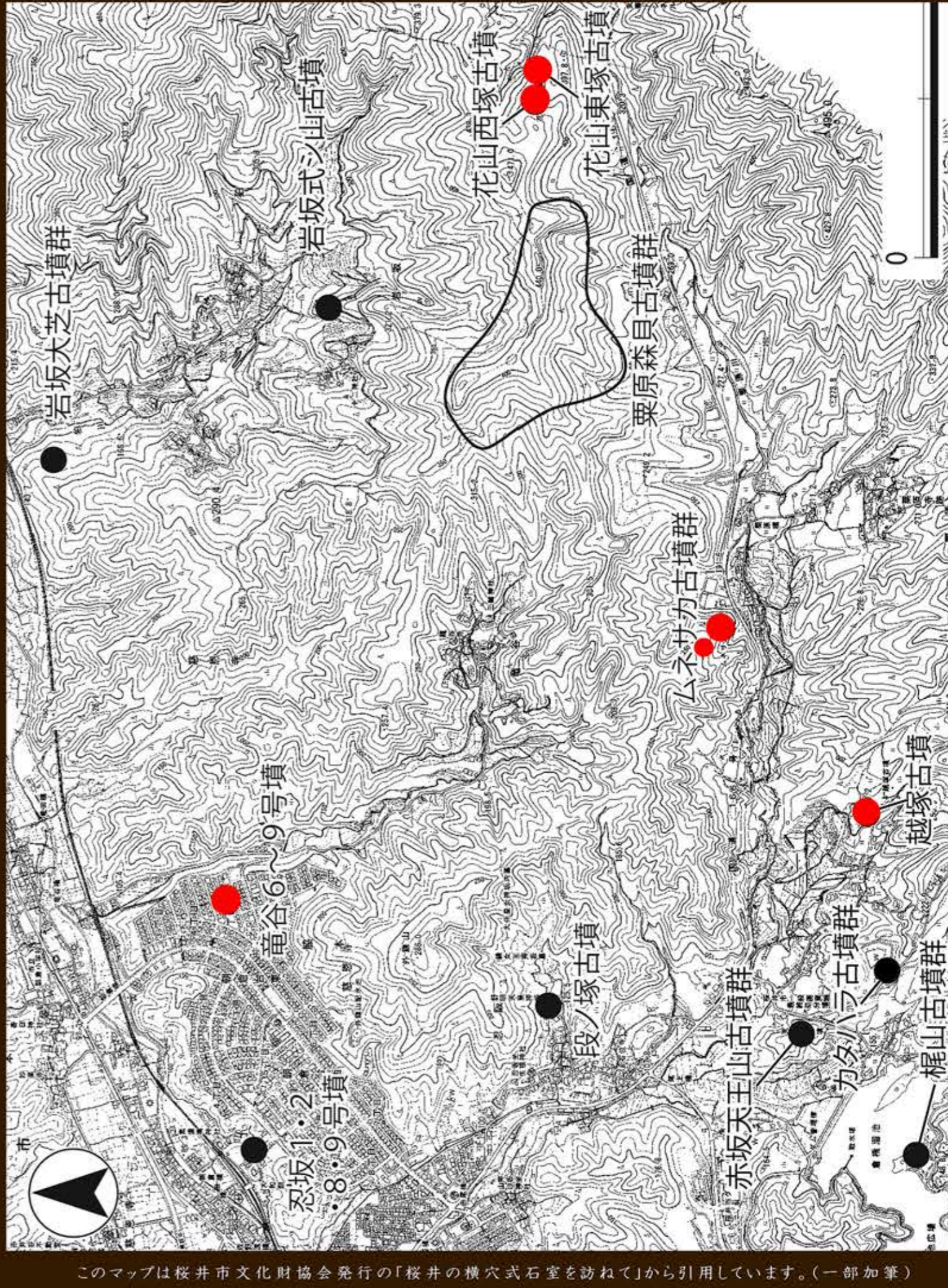
- 今回、ご案内の古墳の多くは横穴式石室が開いており石室内に入り見学する事ができます。しかしながら古墳は文化財であると同時にお墓であるという事を忘れてはなりません。近くに所有者の方、あるいは、ご近所の方がおられれば、お声がけしてから入ってください。
- 古墳の石材や遺物を持ち帰ることは法律により罰せられます。

②安全に！

場所によっては、雑草や蕨が生い茂り、道なき道を探索する場合もあるかと思しますのでくれぐれも安全対策の上、お出かけください。（このコースでは軽登山靴、軍手、帽子、磁石、懐中電灯、スマートフォン等の持参がおすすめです）
本小冊子のデータや写真は取材当時（2018年10月）のものであり、その後、変化している場合もありますのでご了承ください。

粟原周辺古墳マップ

●印はこの冊子で紹介している古墳



このマップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室を巡る」から引用しています。（一部加筆）

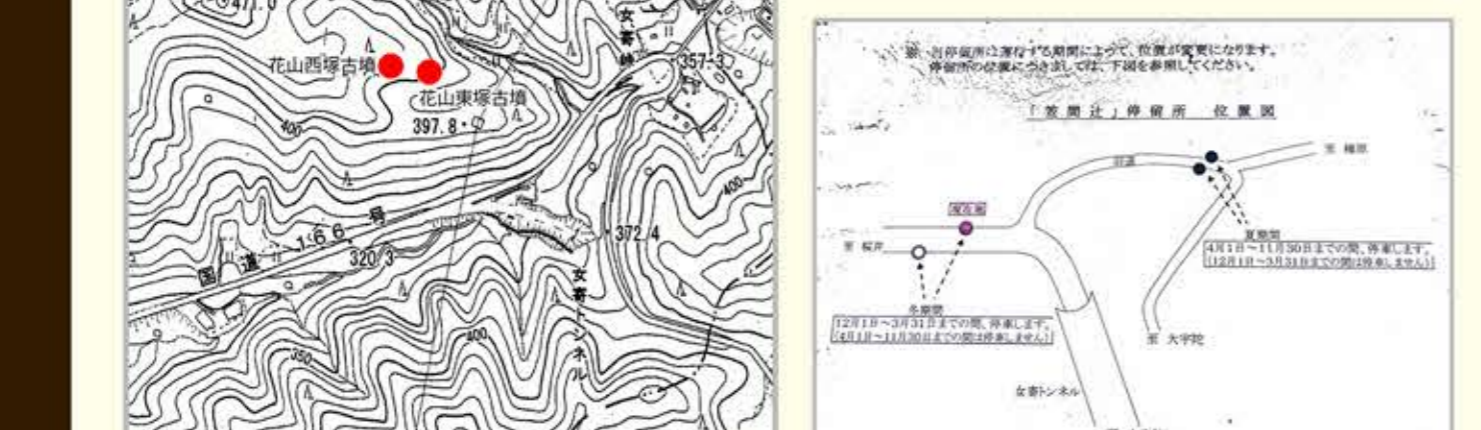
古墳探訪ガイド



- 笠間辻（かさまつじ）バス停で下車し、信号を通り抜け左手（北側の旧道を20～30m歩くと左側に山に入る道があります。
- ここから約10分で花山東塚古墳に到着し、更に約3分位の所に花山西塚古墳があります。まずはこの道を直進してください。
- 1～2分歩くと右手に黄色いフェンス状の柵があります。④すぐ左手に古墳に向かう山道があります。
- 登り始めるとすぐに二手に別れる道がありますが写真のように山道に進んでください。
- そのままだま直進して登ってください。ポイント各所にテープと赤い布が木に巻き付けられています。
- ⑦更に登ると写真のような木があり赤い布が巻かれていますので左折してください。もう少しで到着です。
- 少し進むと右側に説明板が見えます。石室は開いており少し歩けば中に入れます。



- 花山西塚古墳に向かう道は目印になる物がないので下図を参考に花山西塚古墳の横にある花山西塚古墳の表示石を目指し探索下さい。
- 花山西塚古墳の入り口は向かって左方向に進みます。②木に巻き付けられたテープを参考に基本的には右方向に進んで下さい。
- 約30m前進進むと少し分岐がありますが木々の間から花山西塚古墳の石壁が見えます。
- ④そのままだま直進し花山西塚古墳の防壁が見えます。高、幅の上側に柵が掛かっていますので出入はご注意ください。



マップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室」より引用（一部加筆）

探し難い古墳を写真地図でご案内！



- 系統バス停を少し降りたところに「森本運搬」の看板があります。
- 森本運搬さんの事務所まで徒歩約10分ほど歩くと、古墳の入り口付近に到着します。
- 矢印の方向に進みます。
- この林道からムネサカ古墳に向かいます。（幅道に約10分で到着です。）
- 林道に入るとすぐに急な上り坂があります。（足元の悪いときは滑らないように注意ください。）
- 上り切った所で道が分岐しますが写真のように左側の道に進みます。（ここには小さな竹先表示があります。）
- しばらくそのままだま直進しながら歩くと、古墳の入り口付近に到着します。
- これがムネサカ古墳(2号墳)の入り口付近です。（石室内は土砂が入り込み見学困難）



- ムネサカ古墳(1号墳)の南側にあります。
- 写真のように、比較的平坦なところを選びながら少しづつ上にのぼります。
- 頂部まで登ると、比較的平坦な場所に、写真のように横穴式石室が見えます。
- 石室の入り口付近です。（石室内の見学可能です。ただし懐中電灯必要）



マップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室」から引用（一部加筆）

古墳探訪ガイド



- ムネサカ古墳の探訪の後は越塚古墳に向かいます。
- 笠間辻バス停から徒歩約10分ほど歩くと、越塚古墳の入り口付近に到着します。
- 国道に出る左手前にある柵を渡ります。
- すぐ左に折ります。
- 民家の脇を通り過ぎます。
- そのままだま直進すると右手に小塚があります。
- しばらく進むと数軒の民家の間に入口があります。柵が設置されていないので入れませんが、必ずしも戻してください。
- 右方向に少し上り坂になりますが、道なりに沿って進むと、写真の場所まで左折してください。
- 直進し、突き当りの左手に民家と越塚古墳の説明板が見えます。



- 朝倉台という団地の中に保存されている古墳です。この冊子では越塚古墳を見学後、忍阪の集落を通り朝倉台に向かうルートで探訪しています。（この古墳群を単独で見学される場合は近鉄大和朝倉駅下車で駅のロータリーにある住宅地帯の看板を参考にしてください）
- 忍阪集落の用水路の道を通り過ぎると、朝倉台のメイン道路が見えてくるので、そこを右折します。
- 緑やかな上り坂をしばらく（約5分）直進すると、信号と「龍谷」の看板が見えますので、この信号を右折します。
- マップを参考に三つ目の辻を左折します。
- 突き当りの右側の森が龍谷古墳群です。（別の入口もあります）

粟原周辺の古墳探訪(1)

身近で珍しい磚積を実感できる

①花山東塚古墳

墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約15m	横穴式石室	7C後半頃	県史跡



粟原谷の東端、女寄峠手前の標高約400mの尾根の南斜面に花山西塚・東塚古墳は築かれている。墳丘は尾根の斜面を扇形に整形し中央部に、およそ直径15m、高さ3mの墳丘がつくられている。同じ尾根の北西約50mにある花山西塚古墳と立地や石室の技法の共通性から計画的に配置された双墓ではないかと考えられている。

墳丘の南側に開口している石室は、レンガ状の椋原石を漆喰で塗り固めてつくられた。築造は既に破壊されているが、残された石室との間隔から横穴式石室と推定される。玄室部は長さ約3.1m、幅約1.5m、現状高さ約1.2mのレンガ状に加工された椋原石を漆喰で塗り固め、わずかに内積された土で補填されている。（現状残る部分で1段以上）天井部は花崗岩を4石積みし、玄室の壁面には全面に漆喰が施されている。早くから漆喰された土室と推定される。石室の断面には全面に漆喰が施されている。早くから漆喰された土室と推定される。石室の断面には全面に漆喰が施されている。早くから漆喰された土室と推定される。石室の断面には全面に漆喰が施されている。早くから漆喰された土室と推定される。

代表的な磚積式の横穴式石室

②花山西塚古墳

墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約16m	横穴式石室	7C後半頃	国史跡



花山西塚古墳は、南西に傾斜した南斜面に築かれた古墳で、南西に開口部を持つ直径約16mの円墳である。埋葬施設は通常の横穴式石室と異なり、奥室と玄室（前部）の間に奥室が取り付く横穴式石室というタイプに属する古墳である。構造は、椋原石を漆喰で塗り固められた花山西塚古墳と共通する技法で構築されている。

被葬者を安置した奥室は前室より約10cm高い位置につくられ、天井と底石は平石、奥室は切石でつくり、玄室（前部）との間は石室で閉鎖されていた事を示す軸穴の痕跡がある。使われていた石室は現在、奥室の前に積み上げられている。玄室（前部）は長さ約2.2m、幅約1.3m、高さ約1.7mで前室を1.2mありから内積させ天井は花崗岩でつくられている。奥室は前室より高く、両側の形状である。遺物は全く知られていないが、墳丘構造や磚積の技法などから築造時期は7世紀後半と思われる。椋原石を使った横穴式石室は朝鮮半島などで見られる形式である事から被葬者は渡来の人ではないかと考えられ、粟原や粟原谷群というところから築かれた地域に分布している。

山奥にある双墓状の大型石室墳！

③ムネサカ古墳(1号墳)

墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約45m	横穴式石室	7C中頃	県史跡



粟原谷の右岸の丘陵斜面を整形して東西に双墓状の円墳がつけられている。東の円墳が卑弥呼のムネサカ古墳(1号墳)で古墳の規模は、現状で直径約45m、高さ約8mの2段築成の古墳で椋原石の石材がみられる。

埋葬施設は、南に開口する両袖式の横穴式石室で石室規模は全長が16.6m、玄室長4.6m、幅2.7mで奥室、御室ともに2段積みの花崗岩の切石で玄室前室と天井石の間に漆喰が充填されている。又、玄室床面には不揃いの敷石が敷かれ壁に積層する方を破くことで裏打ちしており厚水地設との関連も考えられる。また敷石と敷石の間から漆喰の痕跡が見つかっており、石積が認められていたと思われる。

古墳の築かれた年代は、横穴式石室の形態、規模が春日町の岩屋山古墳と類似することから7世紀中頃と推測される。

粟原周辺の古墳探訪(2)

1号墳とは並ぶ墓か？

④ムネサカ古墳(2号墳)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約23m	横穴式石室	7C初頭	

ムネサカ古墳(1号墳)の北西側に位置する墳丘は、同一丘腹上に隣接して築造されている。その関係が注目される。墳丘の高さは約23m、高さ約5mで1号墳よりひとまわり小さく円墳と思われる。

埋葬施設は南向きに開口した両袖式の横穴式石室で、1号墳同様、花崗岩の大形の切石の石材が用いられ、全長は約10mで土物多量に石室内に入り込み、高さは開口部で約60cm、高いところは約120cmで奥室・御室共に石の2段積みみが見取れる。

築造年代は、本格的な調査が行われていないので詳細は不明であるが、石材の加工等、1号墳より若干古い要素が見られるものの、さほど年代差はなく7世紀頃の築造と思われる。石室内の見学は可能であるが、かなりの圧迫感があり開口部からの見学がおすすめ。

粟原谷を見下ろす巨石古墳

⑤越塚古墳



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径約43m	横穴式石室	6C末頃	国史跡

県史跡の越塚古墳は、この地域では東山王山古墳(1号墳)やムネサカ古墳(1号墳)と並ぶ巨大な横穴式石室を持つ古墳で、粟原川に向かって西北に伸びる丘陵を切断し盛土した直径約43m、高さ約7mの2段築成の円墳である。

埋葬施設は、南西に開口する両袖式の横穴式石室で、全長が15.4mに椋原石を納めた玄室は長さ5.2m、幅2.5m、高さ3.8mと天井の高い形である。持ち回りは比較的狭やかで、玄室部には上山産花崗岩でつくられた箱組式の石積の底石の一部が残り、玄室部には小石が敷かれている。奥室は長さ約10.2m、幅約1.7m、高さ約1.9m。石室は、村で産出する花崗岩の自然石を巧みに使って作られている。早くから開口していたため、出土品等は知られていないが、石室の様式からみて6世紀末の古墳と思われる。尚、見学は自由であるが懐中電灯が必要。

公園内に残された6世紀代の小古墳

⑥竜谷古墳群



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径10～18m	横穴式石室ほか	6C代	

外環山北麓の印地造成に伴い調査され、直径6～9m墳丘が朝倉台2号公園で現地保存されている。いずれも直径10～15m程度の円墳。

●1号墳：直径約10mの円墳で片袖式の横穴式石室、玄室長さ約3.1m、幅約1.6m。出土遺物は金環、鉄刀片、鉄鏡、須恵器、土師器など築造時期は6世紀前半。

●7号墳：直径約16mの円墳で甕蓋がある。石室は全長約6.3m、玄室長さ約3.4m、幅約1.7m、羨道部長約2.7m、幅約1.2m出土遺物は刀子、鉄くぎ、須恵器など築造時期は6号墳とほぼ同じ6世紀前半。

●8号墳：直径約18mの円墳で甕蓋を持つ。石室規模は現存長さ約4.5mで幅約2.4m、現存長さ約2m。出土遺物は水晶三輪玉、耳環、鉄鏃、刀子築造時期は須恵器、土師器などで築造時期は6世紀や下野群。

●9号墳：本朝前石で築成は幅約55cm、現存長さ約1.7m、高さ約10cmで出土遺物として須恵器の杯身、杯蓋があり築造時期は6世紀初頭でこの中では一番古い古墳である。